

第8回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成26年5月12日(月) 10:00~11:30

2. 場 所:原子力規制委員会8階会議室

3. 出席者:

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

平野技術総括審議官、櫻田規制部長、山本審議官、大村審議官、山田技術基盤課長、
佐藤原子力規制企画課長、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、南山安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、
布田総括補佐、足立安全管理調査官、吉野調整官、関管理官補佐、忠内管理官補佐、
田中専門職、二宮品質管理専門官、田口総括補佐

事務局

石井企画官、小林課長補佐、有吉課長補佐、伊藤専門職

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題: (1)技術情報の検討について
(2)その他

5. 議事要旨

事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第7回技術情報検討会議事概要」(資料8-1)の説明があり、了承された。

○原子力安全基盤機構との統合後における原子力施設の運転経験反映のための取組みについて(案)
(資料8-2)

・技術情報検討会の出席者に、技術基盤グループの各安全技術管理官を追加する。

○事務局より、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料8-3)、「2次スクリーニングの検討状況」(資料8-4)、「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」(資料8-5)の説明があり、了承された。

○要対応技術情報リスト(累積)(資料8-6)

・「原子炉補機冷却水系の気体蓄積及びその他の性能に関わる問題(Y2013-03-01)」、「東京電力柏崎刈羽原子力発電所第5号機の燃料集合体ウォータ・ロッドの曲がりについて(S2013-04)」の2件は終了とする。

- 九州電力株式会社玄海原子力発電所3号機で確認された充てんポンプの主軸の折損を踏まえた各事業者の対応について(資料8-7)
 - ・一般的に、ベントラインを設けた場合でもガスが有効に抜けない場合がある。今回の対策については、モックアップ等でガスが抜けることが確認されている旨を説明し、了解された。

- OECD/NEA/CNRAWGOE(運転経験ワーキンググループ)会合での報告事例ー概要(資料8-8)
 - ・事例②の「安全関連リレーの不具合発生リスクの増加」について、国内でもベンダーの不具合情報に基づくトラブル防止のための仕組みを検討する必要がある。そのため、QMSの一環として仕組みが構築できないか検討するとともに、米国の Part21 のような制度についても長期的な観点で検討する。

- 「2次スクリーニングの検討状況」(資料8-4)において、「空気と水の相互作用による消火系配管内部での腐食」について、従来の消防法対象のスプリンクラー以外でも、今後審査で確認するべきスプリンクラーが多数あり、プラントの安全に対する影響は小さくないと思われる。引き続き、十分な調査が必要。

以上